

ヤングリーダーズ国際研修 in いわて
Young Leaders' International Seminar in Iwate (YLIS)
実施要項

プログラムの目的

「ヤングリーダーズ国際研修」は、いわて高等教育コンソーシアムに所属する学生たちと、海外学術協定校など、海外の大学に所属する学生たちが、共同作業やフィールドワークなどを通じてグローバルなコミュニケーション能力を高め、多文化理解等に関する実践的な教育の場を提供する研修である。

2008年度「ヤングリーダーズ国際研修」では、タイ、韓国、中国のアジア3カ国から学生と引率教員の合計17名を岩手に招へいし、岩手大学、盛岡大学の学生11名とともに、「食と持続可能な社会」をテーマに、さまざまな体験を通じたプログラムを実施する。

現在、全世界において持続可能な開発の必要性が認識されており、グローバル社会における最優先課題の一つとなっているが、我々は外国のリーダーたちと連携し現実的対応ができる、知識が豊富な若いリーダーを養成していく必要がある。

このような目標を達成するために、このプログラムは二つの課題を設定した。一つ目は国境を越えて若いリーダーの間にネットワークを構築し、信頼と友情を育むこと。そして二つ目は岩手の山村地域に伝統的に受け継がれている持続可能な生活スタイルや食文化の良い実践から学び、これを各自の生活に生かすということである。タイ、中国、韓国、日本の参加者が一緒に活動し、経験し、意見を交換しあう。参加者の多くは都市部出身であり、過疎の山村に住む人々に出会うことにより、自らの生活スタイルを見直すきっかけとなる。参加者はこのようなコミュニティーをよく観察し、与えられた情報を分析し、このコミュニティーが持続可能になりえた基準が何かを考える機会となる。最終的には各自自分のコミュニティーを振り返ってこの持続可能な開発のための基準を当てはめるにはどうすればいいかを考えてもらい、この研修で学んだことを、将来的に各自のコミュニティーの中で実践してもらおうことが、このプログラムの最大の目的である。

プログラムの概要

異なった国出身の参加学生が混成され、当初はバラバラであるものの、最終的にまとまりのあるチームになるためのグループ構成とする。

参加学生は持続可能な社会について学ぶために様々な活動を行う。まずは、自分たちの食生活で何をどのように食べているのか、各コミュニティーの現状について紹介しあい、お互いを知る。その後、ゲーム形式で食料資源の持続性、食の生産から流通までの持続可能性に関わる問題を認識していく。

週末には日本学生以外の参加者は岩手県内地域の方の協力のもと各家庭でホームステイを行い、日常家庭における食文化や生活習慣について体験的な学習を行う。

その後、参加者全員で「森と風のがっこう」に向かう。この施設は葛巻にあるNPO法人「岩手子ども環境研究所」が管理しているが、地元の廃校を改修して作られたこの施設は山に囲まれ、持続可能な開発のシンボルとなっている。すなわち、すべての資材が環境負荷を減らすためにリサイクルされ、再生され、修理されている状態となっている。同施設滞在中に、参加学生は地域の歴史的課題と出会い、その生活スタイルを実体験する。

この宿泊研修の後、これまでの体験を分析するための討論や各自のコミュニティーで応用できる持続可能な開発のための基準とは何かを探り、最終的なまとめと発表を行う。

参加する海外大学の学生、引率教員：17名

学生：タイ（サイアム大学）4名、韓国（明知大学、群山大学）6名、

中国（寧波大学、曲阜師範大学）5名、

教員：サイアム大学1名、寧波大学1名

参加する日本人学生の数：11名（岩手大学8名、盛岡大学3名）

中心となるテーマ：「食と持続可能な社会」

キーワード：循環型社会、料理、手芸品、エネルギー

スケジュール概要

日	日付	午前	午後	宿泊先
---	----	----	----	-----

数				
1	2月18日(水)	タイチーム到着	中国・韓国チーム到着 歓迎レセプション	ホテルルイズ
2	2月19日(木)	オリエンテーション	事前課題発表会	岩手山青少年 交流の家
3	2月20日(金)	プロジェクト	グループディスカッション、 ホームステイ開始	ホストファミ リー
4	2月21日(土)	ホームステイ	ホームステイ	ホストファミ リー
5	2月22日(日)	ホームステイ	ホームステイ終了、研修旅行 準備	岩手山青少年 交流の家
6	2月23日(月)	葛巻 「森と風のがっこう」研修	「森と風のがっこう」研修	森風宿舎
7	2月24日(火)	「森と風のがっこう」研修	「森と風のがっこう」研修	森風宿舎
8	2月25日(水)	「森と風のがっこう」研修	研修まとめ	岩手山青少年 交流の家
9	2月26日(木)	プロジェクト	プロジェクト	岩手山青少年 交流の家
10	2月27日(金)	発表リハーサル@岩手大学	発表会@岩手大学 送別レセプション	ホテルルイズ
11	2月28日(土)	エクスカージョン (盛岡手づくり村など)	エクスカージョン (盛岡市内見学など)	ホテルルイズ
12	3月1日(日)	出発・帰国		

歓迎レセプションの概要：

- ・日時：2009年2月18日(水) 18:30～20:00
- ・場所：ホテルルイズ(盛岡市盛岡駅前通)
- ・参加者：海外参加学生・引率教員、日本人参加学生、岩手大学長、岩手大学海外学術協定校
担当教員、岩手大学国際交流センター関係者など 40名程度を予定

発表会の概要：

- ・日時：2009年2月27日(金) 15:00～17:00
- ・場所：岩手大学図書館2階 生涯学習・多目的学習室

送別レセプションの概要：

- ・日時：2009年2月27日(金) 17:30～19:30
- ・場所：インシーズン(岩手大学中央学生食堂2階)
- ・参加者：海外参加学生・引率教員、日本人参加学生、岩手大学 学長副学長会議関係者、岩手
大学海外学術協定校担当教員、岩手大学国際交流センター関係者、いわて高等教育
コンソーシアム関係者、ホストファミリーなど 70名程度を予定

プログラム実施担当者

岩手大学国際交流センター准教授 尾中 夏美
岩手大学国際交流センター准教授 松岡 洋子

本件連絡先

岩手大学研究交流部国際課(石沢)
電話：019-621-6923 FAX：019-621-6290
E-mail：gryugaku@iwate-u.ac.jp

「ヤングリーダーズ国際合宿研修 09 in IWATE」実施報告

【目的】「ヤングリーダーズ国際研修」は、いわて高等教育コンソーシアムに所属する学生たちと、海外学術協定校など、海外の大学に所属する学生たちが、共同作業やフィールドワークなどを通じてグローバルなコミュニケーション能力を高め、多文化理解等に関する実践的な教育の場を提供する研修である。2008年度「ヤングリーダーズ国際研修」では、タイ、韓国、中国のアジア3カ国から学生と引率教員を合計17名招へいし、岩手大学、盛岡大学の学生11名とともに、「食と持続可能な社会」をテーマに、持続可能な社会構築に向けた学生たちの役割について体験を通じて考えさせた。

【期間】 2009年2月19日(木)～2月28日(土)(全10日間)

【スケジュール】

2月18日(水) オープンレセプション(ホテルルイズ)
19日(木) オリエンテーション
シミュレーション:世界の食資源と安全性(岩手山青少年交流の家)
20日(金) 討論:食の持続可能性を捉える視点(")
23日(月) 食と循環型社会体験(森と風のがっこう:葛巻町)
24日(火) " "
25日(水) " "
振り返り・討論:食の持続可能性についての課題整理
(岩手山青少年交流の家)
26日(木) 発表準備:持続可能な食生活のためにできること(")
27日(金) 午前:練習・午後:発表会(岩手大学) クロージングレセプション
28日(土) エクスカーション

【参加者】

<交流協定大学>

韓国	: 群山大学	3名	明知大学	3名
中国	: 寧波大学	3名	曲阜師範大学	2名
タイ	: サイアム大学	4名		

<日本人学生>

岩手大学: 8名 盛岡大学 3名

<指導、引率教員>

岩手大学 2名 サイアム大学 1名 寧波大学 1名

【内容】

「食と持続可能な社会」
事前課題 : 自分の食事の成り立ちを調べる
(食事の記録写真(3日間分) わかる範囲でその食材の産地を見る)
地元でとれるもので作られた地元の郷土料理を紹介する
研修中課題 : 各国の食生活調査報告
食と持続可能性の課題発見
「森と風のがっこう」(葛巻町)における食と生活体験
調査体験に基づく研究討論
最終発表

【成果】

参加学生のアンケートによると、全員が「意義の大きい研修だった」と回答している。学生

が
学んだ項目として以下のようなものがあげられる。

英語ないし日本語を使った討論を通して、自らの語学力を認識し、単なる語学学習を超えたアカデミックコミュニケーション能力を高める機会となり、また、今後の学習への動機付けとなった。

外国、あるいは外国に対する偏見がなくなり、人間として多様な背景の学生同士がコミュニケーションできることを実感した。

体験と討論を重ね、そこから出たアイデアに対してさらに問いかけを繰り返したことにより、自らが課題を発見し、その解決に向けた方策を構築するおもしろさを学んだ。

さらに、成果発表では、学生たちは岩手大学の学生プロジェクト支援事業である「Let's びぎんプロジェクト」にて、子どもを対象とした「食と持続可能な社会のためにできること」という教育プログラムを実施するための企画案を作成した。この企画では、今回の研修参加学生たちが日本、韓国、中国、タイでそれぞれプロジェクトを実施し、それをインターネットでつないで意見交換をすることを通じて、子どもたちに「食」「持続可能性」「国際社会と自分のつながり」という点を体験的に学ばせるというものである。海外協定大学の引率教員からも、本研修に対して高い評価を得ており、また、次年度以降、各国での開催を検討したいというコメントも得た。今回の研修が一過性のイベントではなく、継続性のあるものへ発展することが期待される興味深い成果といえよう。





【担当教員】 国際交流センター 尾中夏美・松岡洋子